

<学部用>

授業科目 構音障害演習

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

構音障害演習では主に運動障害性構音障害を対象とし、その評価、訓練方法を習得して実践するために、種々の検査法、訓練技法を実習

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

- 1 評価・訓練のために必要な情報を収集できる。
- 2 標準ディサースリア検査を実施できる。
- 3 神経機構および運動の病態に基づいた構音治療プログラムを立てられるようにする。
- 4 主な訓練技法を模擬的に実施できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	医学的データ、心理社会的データ等の収集	1	講義、プリント
2	標準ディサースリア検査の実施	2	実習
3	標準ディサースリア検査の実施	2	実習
4	標準ディサースリア検査の実施	2	実習
5	訓練プログラムの作成	3	講義、プリント
6	訓練技法の実習	4	実習
7	訓練技法の実習	4	実習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	言語聴覚士のための運動障害性構音障害	廣瀬・柴田・白坂	医歯薬出版	2001 5000円
	その他未定			
参考書	言語病理学を学ぶ人のための基礎神経学	Love著田中・相馬監訳	西村書店	2002
	運動性構音障害	Darley著 柴田訳	医歯薬出版	1982
その他の資料				

【評価方法】 平常の学習状況、実習態度を中心に総合的に評価	【履修上の留意点】
----------------------------------	-----------